

番号	1	名称	九段会館本館	
指定日	平成 15 年 6 月 9 日		所在地	九段南一丁目 6 番 5 号
設計者	川元良一		竣工	昭和 9 年 (1934)



歴史・文化的特徴

旧名称は「軍人会館」といい、帝国在郷軍人会の施設であった。昭和 11 年 (1936) に起きた二・二六事件の際には戒厳司令部が設置され、歴史的事件の舞台となった。

戦後 GHQ (連合国軍総司令部) に接收され、連合軍の宿舎となった。

1953 年より国から (財) 日本遺族会に無償貸与され、「九段会館」と改称、ホテル・結婚式場・貸ホール等を運営してきた。

意匠・構造の特徴

「国粹ノ気品ヲ備へ荘厳雄大ノ特徴を表現スル」という設計競技の要求にこたえ、最上部に城郭風の意匠を取り入れたもので、昭和初期に流行した帝冠様式の代表的建物。

外観は、地形に合わせて突出部分を多くして変化に富み、外装タイルは震災復興期特有のスクラッチタイルを使用している。建物の隅部には、細かい直線的なモチーフの繰り返しが見られ、基本的に洋風である下部と和風の最上部と調和を図っている。当時最新の設備を誇った建物。

周辺景観との関係

内堀通りと靖国通りの交差点に面して建っており、西側には牛ヶ淵の濠が広がっている。九段坂の坂上からは建物を一望することができ、濠の水辺空間、土手の緑と、建物の落ち着いた色合いが調和した景観を形成している。

周辺景観のどの位置からも建物を一望することができ、地域のランドマーク的な役割を果たしている。建物のある九段周辺は、靖国神社など戦前の地域的特色を色濃く残した場所であり、九段会館も地域を特徴づける代表的な建物のひとつである。